

ホールアース自然学校富士山本校における 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン（第1版）

▼はじめに

このガイドラインは、公益社団法人日本環境教育フォーラム、NPO法人自然体験活動推進協議会、一般社団法人日本アウトドアネットワークが共同で作成した「自然学校等における新型コロナウイルス対応ガイドライン（第1版）」と、静岡県が作成した「新型コロナウイルス感染症に対する対応指針〈宿泊施設・観光施設用〉（第2版）」を参考に作成したものである。

このガイドラインを元に、プログラムや業務ごとにそれぞれに適した対応マニュアルを作成し、マニュアルに沿った行動を取ることで、新型コロナウイルスへの感染リスクを極力低くすることを狙いとする。

▼新型コロナウイルス感染症の主な感染経路、感染リスクの高い状態

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議によると、主な感染経路は以下の2つである。

1. 飛沫感染

感染者の飛沫（くしゃみ、せき、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、2m以内の至近距離にいる他の人がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染する。

2. 接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付着する。他の人がそれを手で触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染する。

閉鎖空間において近距離で多くの人と会話する等の一定の環境下であれば、咳やくしゃみ等の症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされている。また、発症前2日の者や自覚症状のない者からの感染の可能性も指摘されている。

特に以下の3つの条件（**3つの「密」**）のある場では、クラスターの発生により、感染を拡大させるリスクが高いと考えられている。

- ・密閉空間：換気の悪い密閉空間である
- ・密集場所：多くの人が密集している
- ・密接場面：互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる

上記以外の場所であっても、人混みや近距離での会話、大声を出すことや歌うこと、激しい呼吸や大きな声を伴う運動についても感染リスクがある可能性が指摘されている。

▼基本的な感染予防対策

上記の感染経路や感染リスクに対して、基本的な感染予防対策は以下の通りである。

- ・ 定期的な手洗い
- ・ 咳エチケットの徹底
- ・ マスクの着用
- ・ 室内空間の換気
- ・ 施設の消毒

▼事前、事中、事後という3つの段階での整理

ホールアース自然学校の業務のうち、プログラム実施を中心に据え、1) プログラム実施前 2) プログラム実施中 3) プログラム実施後 のそれぞれの時点におけるリスクの把握とその対応策を整理しておく。

1) プログラム実施前

- ① 3密を避け、以下の項目に分けてプログラム実施計画を策定
 - 実施場所
 - 参加人数
 - 実施時間
 - 移動手段
 - 実施内容
- ② 参加者の健康状態の把握と、感染リスクがある参加者の参加取りやめ連絡
- ③ ホールアーススタッフの定期的な健康状態の把握

2) プログラム実施当日および実施中

- ① 国の要請および静岡県の警戒レベルの確認
- ② ホールアーススタッフの健康状態の確認
- ③ プログラム実施場所の安全確認および安全確保
- ④ 参加者の健康状態の確認
- ⑤ プログラム実施中の3密対策の確保
- ⑥ アルコール消毒等、使用備品の確認

- ⑦ 参加者への提供備品（ヘルメット等）に関する対応の確認
- ⑧ プログラム実施中（事後判明含む）に体調不良者および感染者が発生した際の対応の確認
- ⑨ プログラム実施後、ホールアーススタッフに体調不良や感染が判明した場合、プログラム実施後どのくらいの期間が経過した時に参加者に連絡するか確認
- ⑩ プログラム実施後、参加者に体調不良や感染が判明した場合のホールアースへの連絡依頼や、プログラム実施後どのくらいの期間が経過した時に依頼するかの確認
- ⑪ プログラム実施中の中止判断基準の確認
- ⑫ 宿泊プログラムの場合、3密回避方法、入浴方法、食事場所・食事提供方法の確認
- ⑬ 雨天時の室内型代替プログラムに関して、3密回避方法の確認

3) プログラム実施後の対策

- ① プログラム実施に使用した場所や物品の清掃、消毒、交換
- ② ホールアーススタッフ個人の制服や備品の選択、消毒